

SHIROYAMA Hospital

病院でも、在宅でも施設でも。
**安心して医療・介護が
受けられる地域づくりを**



インタビューで綴る
城山病院&看護部

独自の取り組みで
**高い在宅復帰率を
キープ!**

助け合い、励まし合える、

働きやすい病院です!



はちせいの事業所



お問い合わせはお気軽に

八王子保健生活協同組合

城山病院

〒193-0826 東京都八王子市元八王子町3-2872-1

<http://www.hachisei.or.jp/txt/shiroyama.html>

TEL 042-665-2611 FAX 042-666-6010

インターンシップ・病院見学
随時受付中

お気軽にお問い合わせください
(担当者 山口)

病院でも、在宅でも施設でも、安心して医療・介護が受けられる地域づくりを



杉本 淳 院長

地域のかかりつけ医として、元気なときから、終末期までサポートしていく病院に

杉本院長がめざすのは、「地域で決着をつける」医療。地域のかかりつけ医として、元気なときから入院中、退院後の在宅や施設での療養生活、看取りまでサポートする病院です。住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、母体である八王子保健生活協同組合の法人内で連携を強化、さらに他の医療機関にも働きかけています。

リハビリ専門医である杉本院長は「現場が大好き」。多くの患者様を受け持ち、リハビリ室にも頻りに顔を出します。「とにかく患者様と話すよう心がけています。『家族と話しているみたい』とよく言われるんですよ。『リハビリに強い城山病院』の象徴的な存在でもあります。



高尾駅から約2.5km。澄んだ空気と緑に囲まれた城山病院

リハビリの強化で在宅復帰率が向上

城山病院は、1979年の開設時より、高齢者医療・介護に取り組み、特に在宅医療に力を注いできました。近年は、八王子保健生活協同組合の15事業所間で連携し、入院時から退院後も一貫してサービスを提供する「はちせい地域包括ケア」(P9参照)をめざした体制づくりを推進。

2011年には、集中的なりハビリが必要な患者様に対応するため、回復期リハビリテーション病棟を開設しました。以来、多くの患者様(約90%)が早期の在宅復帰を果たされています(P11参照)。また医療療養病棟では、かかりつけ患者様の急性増悪にも対応し、こちらも約70%という高い在宅復帰率を誇っています。

地域を支える病院として思いを一つに

リハビリ室では、自立が難しい患者様でも少しでも良い状態になるように、と若いスタッフが中心となってがんばっています。院長主催の勉強会に熱心に参加し、誰もがスキルアップに余念がありません。また、リハビリの隣で行われているデイケア担当のスタッフと情報交換し、退院後の患者様の様子を把握。カンファレンスを通して看護師なども情報共有しています。リハビリの強化だけでなく、こうした多職種による連携(P8参照)が早期の在宅復帰を実現するベースとなっており、杉本院長を中心に、皆で地域を支えようという思いが院内に一体感をもたらしています。



活気のあるリハビリ室で楽しく会話しながらのリハビリテーション



リハビリスタッフと看護師は頻りに情報交換し、密に連携しています

病院概要

八王子保健生活協同組合 城山病院
所在地：〒193-0826 八王子市元八王子町3-2872-1
TEL：042-665-2611 FAX：042-666-6010

- 開設 1979年
- 診療科目 内科 循環器科 リハビリテーション科
- 病床数 総数199床(医療療養病棟124床、介護療養病棟35床、回復期リハビリテーション病棟40床)
※2015年在宅療養支援病院へ移行予定

ISO9001 (品質マネジメントシステム) の認証を取得



ISO9001とは、ISO(国際標準化機構)が策定する世界共通の規格です。八王子保健生活協同組合は、保健・医療・介護・福祉のサービスについて、満足度と質を向上させる取り組みが認められ、2006年5月18日付けで城山病院を含む6つの事業所が認証を取得しました。



両親を看取った経験があるから、ご家族の目線で声掛けができる



キャリア23年という猪股師長。入職当時は夜勤のみのパートで、幼いお子さんを抱え、重病のお母様の介護に追われていました。「まわりは子育てを終えた懐の大きな先輩方ばかり。嫌な思いもせずお休みが取れ、助かりました」。お母様が4年後に他界され、常勤に。人間関係の円満さは今も変わらず、「病棟のスタッフが協力的で、うまく回っています」



猪股 昌子
医療養病棟
看護師長
2000年入職

これまでの患者様の印象的なエピソードをうかがいました。「私と同世代の方で、当初は気管切開で口も

きけない状態でしたが、無事に歩いて退院されました。今も週に一度リハビリに通われ、ご家族と一緒に病棟まで来てくださることも。法人内で退院後もケアしているのが、ずっととかかわりを持っているのが大きなやりがいですね」



一人ひとりの患者様の尊厳とその人らしさを大切に、ぬくもりのある看護を提供しています



疾患だけでなく、患者様の暮らしにかかわり、人生に触れることができます。それが城山病院の看護の魅力です。

療養型でも、スキル習得の機会はたくさん

城山病院は、高齢者が多い療養型の病院で、残業もほとんどありません。というところ、「のんびりしている」と思われますが、どの患者様も2カ月以内の在宅復帰が目標です。実際には「亜急性期」くらいの忙しさ。手術はなくても、医療的な処置をする場面が多く、勉強会も頻繁に行っていますので、スキルはしっかり身につきます。

「お互いさま」で助け合う、居心地の良さ

看護部は何といっても定着率の高さ（PII参照）が特長です。優しさや思いやり、気遣いを大切にしていますが、それは患者様に対してだけでなく、働く仲間どうしでも同じ。そこから「お互いさま」「互助の精神」が育ち、子育てや介護でお休みを取るときにサポートし合えるので、それが居心地の良さにつながっているのかもしれない。

患者様の疾患と暮らしに向き合える看護

当院の看護の醍醐味は、急性期に比べて入院期間が長い分、患者様自身とかわりが持てること。退院まで見届けられることができ、デイケアや訪問看護ステーションなどを通じて、退院後の様子も知ることができます。たとえば男性の患者様なら、たとえ手足が動かなくとも、自宅では一家の主としての顔がある。それを知っていると、入院中の患者様への対応も変わります。患者様の人生の中で、疾患だけでなく、暮らしともどう向き合っていくか、そこに興味を持って取り組む人に来ていただけたらうれしいです。

- 患者様の特徵**
- 在宅療養の
 - (1) 急性増悪の治療
 - (2) 介護者のための介護休養
 - 急性期治療後の
 - (1) リハビリ
 - (2) サービス調整
 - 在宅介護が困難で、医療依存度の高い長期療養
 - 慢性疾患の定期的検査やリハビリが必要な短期療養

皆さんに喜んでもらえるイベントを企画し、城山病院を盛り上げたい



白井 美幸
回復期リハビリテーション病棟 看護師
2012年入職

明るい笑顔が印象的な白井看護師は、回復期リハビリテーション病棟を担当しています。ご高齢の患者様は、入院中にADL*がどんどん低下するのが普通ですが、この病棟では元気になっていく姿が見られるので、そこにやりがいを感じると思います。「ご家族のご意向を聞き、何度でもカンファレンスを開いて多職種で意見を出し合うことが、迅速な在宅復帰につながっていると思います」



また、誰よりも患者様とよく話をする院長の姿には大いに刺激される

そうです。「私も患者様には自分の家族のように接しています」。つい最近、院長の後押しもあり、自身の発案で夏祭りを開催しました。「スタッフの協力もあり大成功。ここはキャリアに関係なく、意見を尊重してもらえる職場なんです」

*日常生活動作

山口 和子 看護部長



自身も育児・介護との両立を経験し、周囲の方々に助けられたとか。「看護師とは違う人生を疑似体験できる」と週3~4冊は読むほどの読書好き。

看護記録方式	経時的経過記録
看護方式	チームナーシング・プライマリナーシング
夜勤体制	1病棟・2A病棟・3A病棟 看護師1名・看護助手1名
	2B病棟・3B病棟 看護師2名・看護助手1名

どんな処置でも覚えるのが楽しい

プリセプティの齊藤看護師は、10年以上の事務職経験を経て転職した異色のナースです。働きながら資格を取り、今春から常勤に。「不安はありますが、プリセプターさんをはじめ、病棟ぐるみでフォローしていただきます。今は採血やへパ止め一つでも覚えていくことが楽しくて」と明るい笑顔を見せてくれました。

教えることも「学び」

一方の森本看護師は入職2年目ですが、キャリア19年というベテラン。プリセプターとして「見守る姿勢」を大切にしているそうです。「OJTで処置や技術を指導していますが、大切なことはすぐに答えを教えずに、あえて宿題にします」。齊藤看護師も「自分で気づかせてもらえてありがたいです」

「どう教えたらわかりやすいか、を考えるのは、勉強になる」という森本看護師に、齊藤看護師は「本当に心強いです。早く諸先輩方と肩を並べて働けるように成長したい」と目を輝かせていました。



プリセプター 森本 貴代美
回復期リハビリテーション病棟 2013年入職

残業がなく、育児中でも働きやすい！

私のように
転職した方でも大丈夫！
プリセプティ 齊藤 朋子
回復期リハビリテーション病棟
2014年入職

わたしたちの学びと成長

看護部・教育システム

新人、中堅、ブランクのある方でも、学び成長できるプログラムとフォロー体制を用意しています。

週1回の勉強会でスキルアップ

看護部では、独自の年間教育プログラム（クリニカルラダー）を採用しています。当院は病床の半分以上が療養型ですが、毎月4〜5回は勉強会を開いており、キャリアの浅い方でも基本的な手技をしっかりとし身につけることができます。勉強会の約8割は勤務時間内に行っており、高い参加率が自慢です。

院外研修の受講を全面サポート

院外の研修は日勤扱いで、研修費・交通費ともに病院が負担します。スタッフ間で協力し合ってバックアップしますので、気兼ねすることなく受講できます。研修後は院内で研修報告をして



訪問看護も体験できる法人内留学制度

全員で共有します。プリセプター制度や24時間いつでも自己学習できる「eラーニング」も導入しています。

地域との距離を縮める法人内留学

2014年春にスタートした「法人内留学制度」では、病棟勤務の看護師が訪問看護ステーションやデイケアでの看護を体験します。地域と連携した医療サービスを実現するための制度ですが、環境や立場の異なる職場での看護を経験することで、連携の大切さや退院後の生活への理解が深まります。

新たな視点で初心に帰る

青柳看護師は回復期リハビリテーション病棟から、主任として療養病棟へ異動しました。「プレッシャーはありますが、何かあっても病棟で解決策を考えるので、一人で抱え込むこともなく、温かく見守ってもらっています。いかにいい環境をつくるか、という視点に立ち、初心に帰った気持ちで大きなやりがいを感じます」

謙虚に期待に応えていきたい

杉山看護師は、3年間子育てに専念した後に復帰。「子供が幼稚園にいる間だけの勤務から、徐々に時間を伸ばして少しずつ勤を取り戻し、今は常勤になりました。以前に経験のある外来に配属されたのもありがたいですね」。常に「患者様の心をいかに開いて差し上げるか」を意識しているそうです。

キャリアは同じ19年。ともに「一人ひとりの職員が大切にされている」という実感があがり、期待に応えようという姿勢が見えます。気負いなく、与えられた責務を果たせるよう、がんばっています。

ご家族の意向に配慮できる病院です！
青柳 敬子
介護療養病棟 看護師 主任 2012年入職

奥が深く、やりがいがある！
楽しい！
杉山 敏子
2011年入職 外来 看護師

■ 新人年間スケジュール

- 4月 法人新人研修 シミュレーターにて吸引、採血実習
- 5月 与薬、救命処置、医療安全
- 6月 看護過程／摂食嚥下と食事介助
- 7月 ポジショニングと褥瘡予防
- 8月 介護保険の基礎／認知症理解
- 9月 メンタルヘルスケア／身体抑制ゼロ
- 10月 メンバーシップ研修／夜勤研修
- 11月 終末期ケア／呼吸器ケア
- 12月 感染症／危険薬物研修
- 1月 5S、KYT研修
- 2月 モニターアラーム管理
- 3月 症例発表

■ 教育プログラム・クリニカルラダー

ラダーⅣ スペシャリスト	専門の分野での教育・コンサルテーション等 ● 専門、認定教育研修	ラダーⅣ マネジメント	指導・教育的立場で、組織的に広範囲に役割が遂行できるレベル ● 管理者研修 ● 看護研究指導 ● 病院運営参画 ● 専門委員会運営参画
ラダーⅢ 卒後5年～	看護実践に於いてロールモデルとなり、指導できる 組織の目標達成に貢献するレベル ● リーダーシップ研修 ● 看護研究リーダー ● 教育指導者研修 ● 法人内留学（在宅事業部連携）		
ラダーⅡ 卒後3～4年	自ら自立し、自律的に日常看護業務が遂行できる 介護職を含むチームメンバーとして行動できるレベル ● リーダー業務研修 ● 看護研究 ● 法人内留学（院内他職種連携） ● 個別ケア ● 事例検討会 ● 生協研修		
ラダーⅠ 卒後1～2年 中途採用当初	自立に向けた指導を必要とするレベル ● 新人研修 ● 技術チェックリスト ● メンタルサポート ● チームメンバー研修 ● 看護過程		

はちせい地域包括ケア

八王子保健生活協同組合では、法人内の15事業所が連携し、地域にお住まいの方が元気なときから、医療・介護を経て終末期まで、包括的に支援していく「はちせい地域包括ケア」をめざしています。

● 医療

- 城山病院
- 診療所
- 訪問看護事業所 2カ所
- 通所リハビリテーション事業

● 介護

- 居宅介護支援事業所 2カ所
- 訪問介護事業
- 通所介護事業所 2カ所
- 小規模多機能居宅介護事業所
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業

● 予防・生活支援

- 地域包括支援センター
- シルバー交番事業
- 福祉用具サービス

はちせいハートプラン
(生活習慣の見直しや早期治療を呼びかけるイベントを開催)

他の医療機関・事業所との連携

多職種での連携

スタッフの強い結束力で早期の在宅復帰を実現しています



はちせい地域包括ケアを支えるスタッフたち

仕事の内容は？
 澤 病院内の通所リハビリでご利用者様の看護にあたっています。バイタルチェックのほか、胃ろうや褥瘡などの医療的な処置、排泄介助なども行います。人手が足りないときはレクリエーションや介護業務を手伝うこともあります。
 岩倉 退院される方のカンファレンスに参加し、退院後のプランを立てています。まずデイケアや訪問看護にどのようなニーズがあるかお伝えし、役割分担を決めていきます。状況の変化に合わせて調整するのも、大切な仕事です。
 榎本 小児からご高齢の方まで、365日・24時間体制で緊急時にも対応しています。病院とは違ってご自宅に入れていただくので、利用者様との信頼関係を築くことが大切。「入れていただいていることが大切です」という気持ちで仕事をしています。

「はちせい地域包括ケア」について

榎本 入院中も退院後も、看護やリハ、介護が切れ目なく連携し、包括的に受けられるのは地域の方々にとって安心だと思えます。新しくご利用になる方もその点を評価されています。
 岩倉 スタッフとしては、同じ法人内な

ので内線で迅速に連絡を取り合い、コミュニケーションを密にできるのがいいですね。一人でできることは限られるので、違った視点の意見や情報ももらえると、患者様やご家族に無理をさせないプランを立てることができます。
 澤 デイケアの様子は、入院中の担当看護師さんなどにも細かくお伝えしています。デイケアでしか見せない表情があったりするのですが、情報交換は大切ですね。退院後の様子や経過を病棟の方が把握しているれば、再入院の場合などにも役立ちます。
やりがいは？
 澤 利用者様が回復され、元気になる姿を見ていけるのが一番ですが、人とかかわることが好きなので、チームワークで働くことも大きなやりがいです。
 岩倉 病院の医療相談室から転身したのですが、たとえばデイケアで利用者様がレクリエーションを楽しまれ、満足そうに帰られる様子を見ると、医療とは違ったやりがいを感じます。
 榎本 利用者様それぞれに価値観や環境が異なりますし、難しいこともあります。ケアマネジャーさんはじめ、皆さんに助けてもらっています。やりがいは、ご家族や利用者様に元気をもたらせることです。

目標達成の喜びをチームで分かち合う
 一日も早い在宅復帰には、医師や看護師、リハビリスタッフ、介護スタッフ、薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカーなど、さまざまな職種のスタッフが連携する必要があります。患者様一人ひとりの情報を全員で共有し、週に一度のカンファレンスで、それぞれの立場から意見を出し合います。同じ目標を持ってチーム一丸で取り組むことで、高い在宅復帰率をキープ（P11参照）。目標達成の喜びをチームで分かち合うことが大きなやりがいとなり、さらに結束力を強めています。



南 雅幸
2006年入職
作業療法士

作業療法士

自立度アップのために院内の意識統一を図りたい

退院後の生活を見据えて、立つ・座などの基本動作を中心に、ご希望に沿った目標を立てています。自立度を上げるために、病棟のスタッフに「介助は少し待ってから」といった助言もしています。小さな積み重ねが早い在宅復帰につながるので、その意識を病院全体に浸透させていきたいです。

コメディカルの声

曾根 美緒
1999年入職
管理栄養士

管理栄養士

栄養面から回復を助け、在宅での様子も把握

患者様の栄養状態を調べてスタッフ間で共有し、栄養サポートチームの会議で意見を出し合います。栄養指導では、食べやすい形態、見た目のおいしさにも工夫しています。退院後もデイサービスや訪問リハビリの担当者で連絡を取り合っており在宅での様子も把握しています。



澤 さおり
城山病院
デイケア担当
看護師



榎本 智子
城山訪問看護ステーション
訪問看護師

岩倉 真弓
指定居宅介護支援事業所だいらく
ケアマネジャー

患者様とご家族の「根っこ」を把握し、連携をスムーズに

患者様とご家族のご希望や問題点などをうかがい、最適なケアやサービスをご提案して各部署との調整を行います。大切なのは、患者様とご家族が根っこに抱えている思いを引き出すこと。ご意向とのズレがないよう、連携をスムーズにして問題解決をバックアップしています。



山口 広作
2009年入職
医療相談員
医療ソーシャルワーカー



データで見る城山病院と看護部

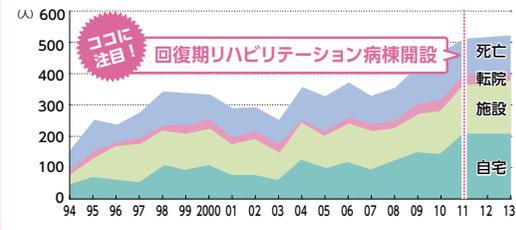
☆高い在宅復帰率

①は、この20年間に退院された患者数の推移です。回復期リハビリ病棟を開設した2011年より入院者数も増加していますが、何らかの形で退院された方の数、中でも在宅復帰された方の割合が格段に増加していることがお分かりいただけると思います。

院長を中心に、職員が力を合わせて在宅復帰に取り組んできた成果です!



① 退院先年次推移 (1994~2013年)



迅速な在宅復帰のための取り組み



退院支援シート

多職種のスタッフがそれぞれの立場から患者様の様子を書き込み、復帰支援につなげます



家屋調査も多職種で

調査には看護師も参加し、危険箇所や改修の必要性などをチェックします



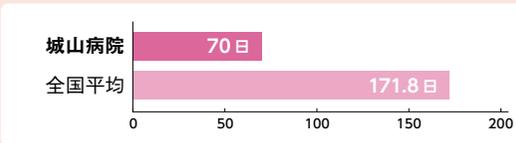
ご家族と一緒に

退院後の生活はご家族の協力が不可欠。目標を共有して復帰をめざします

② 在宅復帰率 (2012年実績)



③ 平均在院日数



※病院報告(厚生労働省調べ・2012年)と当院医療療養病棟(2012年)の比較

※日本看護協会ワークライフバランス推進事業参加施設に所属する64,663名の調査結果(2013年度)と当院での調査(2013年)の比較

☆ワークライフバランス調査データ

■業務が終われば周囲に気兼ねなく帰ることができる



■一週間程度の連続した休暇を必要に応じて取得できる



■有給休暇は必要に応じて取得できる



■勤務表作成時に個人の希望が通りやすい



■ そう思う・ややそう思う ■ あまりそう思わない・そう思わない ■ 無回答

☆看護部の高い定着率

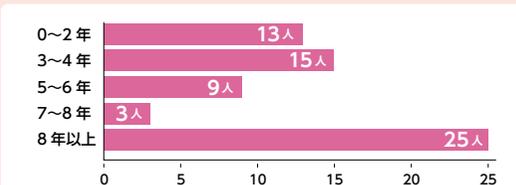
勤続年数の最長記録は34年!看護部では、長く働き続けてもらえるよう、一人ひとりの職員を大切に考えています。「お互いさま」「互助の精神」を実践し、サポートし合うことで仕事とプライベートを両立させ、気持ちよく働ける職場づくりに努めています。

新卒の方、ブランクのある方もウェルカム!

親身になって指導します!



勤続年数 (2014年実績)



さまざまな職種のスタッフが笑顔で働ける健全な環境風土も当院の特長のひとつ

休日休暇

- 年間休日: 122日 (公休113日、夏季休暇5日、年末年始休暇4日)
- 有給休暇: 入職時4日、入職6ヵ月経過後10日(最大25日まで付与)
- その他慶弔、産休、育休、介護休暇

福利厚生

- マイカー通勤OK(駐車場代/0円、ガソリン代/距離に応じた通勤手当)
- 退職金制度(勤続1年以上)
- 送迎バス/高尾駅から所要時間10分 2~3本/時間
- 制服貸与/クリーニング(病院)
- *残業はほとんどありません。

当院では、どの職員も有給休暇の消化率が高く、仕事とプライベートのバランスをとりながら、職務に励んでいます(P11参照)。中でも看護部は、看護協会の「ワークライフバランス推進事業」(2014年度~2016年度)に採択されたこともあり、一人でも多くの職員が長く働き続けることのできる職場環境づくり、「お互いさま」の気持ちで自然にサポートし合える大らかな風土づくりに取り組んでいます。

大好きな大正琴が仕事の励みに

10年前、職員のためのサークル第一号として誕生した大正琴をずっと続けています。月2回、食堂での練習のほか、病院のイベントで披露したり、地方の大会や全国大会などへも有給休暇を利用して参加させてもらっています。病院以外の人たちと会う楽しみもあって、とてもリフレッシュできます。ちなみに、育児休暇取得第一号も私です!

滝沢 ゆかり
医療療養病棟
看護師
1985年入職



遠く離れた実家での介護と仕事を両立

18年間主婦業に専念し、当院で看護職に復帰しました。入職後に姉と父を亡くし、2年前には実家の山口で一人暮らしの母が倒れたため、まとめてお休みをいただきました。その後も毎月1週間ほど休みでしたが、介護世代の職員が多く、すでに経験した方や「明日は我が身」という方もいて理解が得られたので、落ち着いて介護ができました。

次田 景子
回復期
リハビリテーション病棟
看護師長
2006年入職

